

令和4年度前期「子どもの提案」に寄せられた意見

※寄せられた意見を基本的にそのまま掲載しています。(明らかな誤字は除く)

②大切に思う地域の歴史文化資源としての「お宝」は何ですか。その「お宝」を未来につなげていくには？ (87件)

提案内容
僕が大切に思う地域の歴史文化資源は、さいたま市の地域の環境や、浦和駅西口にあるような浦和うなこちゃんが大切だと思います。浦和うなこちゃんは、あの有名ななせたかしさんが作った物で、僕的には、すごく大切にしまさなきゃいけない地域の存在だと思いました。このようにして浦和のうなぎを広めていくこともとても大切なことだし、うなこちゃんの左手には、うちわを持っています。そのうちわのおかげで、僕もよく見るキーポイントにもなっています。仮移設の場所のままになっていますが、これからも浦和うなこちゃんを区宝にできるように、地域の人の協力などできる限りのことは、した方が良くと思います。別所沼公園にある浦和うなこちゃんは、盗難被害にあってまだ未解決のままで仮の小さいうなこちゃん像がおかれたままですがいつか、あの浦和うなこちゃんが帰ってくることを僕自身も心から願っています。あれを元通りに修復するには、多額の費用がかかり、市の予算などからは、難しいとは思いますが、あきらめずに浦和のうなぎの象徴、浦和うなこちゃんがいずれもどってくる日がくることを願っています。
東大宮操車場の中の駅“朝日駅”をいっばん人や学生が使えるようにして、茂川に橋をかけたりして、使える駅にまずは、朝日駅からはいっばんの道路(もちろん歩道部分)につなげる道も作るようにJR東日本にお願いして下さい。もちろん操車場自体も残すように伝えて下さい。
歴史文化資源として昔からある家でも、植物、お祭りなどどんなものでも、その周囲の環境を全然管理されたりせず荒れてきてそれによってなくなっていくこともあるので税金などを都市部分ばかりに使ったり管理するべき地域だったとしても、全く関係ない、たいして荒れてもいけない道を直したりと、直しても便利にはなりづらいので、そこに使う税金の一部分だけでも文化資源がなくなる可能性などが高いところを優先的に使ったり、そもそも文化資源が身近にあったとしても気にかけず全然気がつかないこともあるので、文化資源についての呼びかけのポスターなどを各地域、各所にはったりして、税金を使う以外にも、ボランティアなどで文化資源を保ったりして今よりも良い状態でもっと未来につなげていくべきだと思います。
お宝は、大宮にある氷川神社があげられると思います。氷川神社は私の家の近くにあつて、毎年初もうでや七五三などでにぎわいます。また、そこは夏休みに、ぼたるのかんしょう会が行われ、実際に私も参加しました。その時、その場所は歴史的で価値があること意外に、貴重な動物のすみかにもなっていることを深く感じました。 改めて、考えてみると歴史的な建物や場所には、周りが自然豊かで、生き物が暮らしているところが多いと思います。その大切な自然を歴史を守るためには、まず私たちがその価値を知ることが重要だと思います。人間は興味・関心のないものを守ろうとはしません。なので、まず「知る」「知ってもらう」ために地域の掲示板などにポスター・パンフレットなどの紹介できるものをつくると良いと思いました。
東大宮操車場にこれからも列車などが来るように、鉄道の名所として、また国鉄からの歴史ある操車場を見学したりできるようにする。これを実現するためには、周囲の三御道路を整備しJRともとの利益を試算し公表する。
大宮公園内にある武蔵一宮氷川神社や、氷川神社のとなりにある埼玉縣護国神社などの歴史的に価値のあるものを残すために、人が多く集まるNACK5スタジアムや、その他の施設と連携したりして、人々の印象に残したりしたら良いと思う。また、盆栽や土偶のようにどこかの施設をつくり、そこに歴史的価値のあるものを展示するなどしたら良いと思う。
大切に思う地域の歴史の資源のお宝は、その地域の特別な食べ物や、物のせいぞろ方法などのことをさし、そのにない手を増やす方法として、その担い手になることによって税金の税率を軽くしたりすることなどを行えばよいと思う。
地域のイベントに参加をしたり、その地域の伝統を自主的に担おうとしている人々に、特定の割合で税を免除したりするなどの特典を与える。
その地域の文化にふれていくために、行事などを増やす。また、学校の行事などにも追加することにより、子どもに文化をふれさせる。子どもでも簡単に参加できるようなイベントごとを増やす。参加したらなにかがもらえるなどの、興味を引くようなイベントをする。
・小学校の校外学習などで、盆栽美術館や人形博物館などへ行き、若い子供たちにもさいたま市の伝統を知ってもらうことで、子どもたちに興味を持ってもらえるようにする。・夏休みを活用して、イベントや展覧会などを積極的に開催することで、取り組みを多くの人に知ってもらえるようにする。・今の世代の流行を取り入れ、コラボすることで、若い人々に興味を持ってもらえるようにする。・後継者作りに積極的に取り組む。・「お宝」はその人の心に響いたり、残ったりしたもののことを言うのだと、思うので、色々なイベントをたくさん開催し、それぞれの人に合った「お宝」を見つけることが、さいたま市の歴史的文化的の継承に繋がるのではないかと思います。また、さいたま市には、誇れることがたくさんあると思うので、自信を持って、これからも様々な活動に取り組んでほしいです。
歴史的文化的資源の「お宝」の価値は、時代とともに、変わるものなので、定期的に「お宝」を見る機会を開き、そのかちに、きづいた人たちが守っていけばよい。
地域の地蔵や、祭りを残すには、小学生や中学生などの間で、「郷土カルタ」をしたり、教科書などで、そのものについて教える。その後、校外学習などで実際に見ることで、地域の祭り、や歴史のあるものについて子どもたちが考える機会をつくる。
・お祭りなどの、大勢の人が集まるイベントの時に体験コーナーのようなものをつくり、人々の関心・興味を広げる。 ・スタンプラリーみたいなものをつくり、そのスタンプのわくには、さいたま市の郷土資料館などをあてる。そして、スタンプがたまったら、さいたま市の美術館のチケットがもらえる、みたいな制度を作り、さいたま市の歴史的資源に関わる場所にたくさん行ってもらう。そのときに、友達といったら、スタンプが2こみだいに、たくさんの人が集まるようにする。
学校に通っている時に学校の行事として伝統ものにふれる機会を増やすことで、自分の市ではどのようなものがあるのかを知る。人の注目が集まる場所で市の伝統に関するだしものやキャンペーンを行う。
別所沼公園や川などの、水鳥や水辺の生物が生息している場所を、開発が行われないように条例などを制定し、守る。募金やボランティアを募り、定期的にそうじなどをする。自然観察イベントなどをつくり、どのような生物が生息しているか調査する。自然とふれあう機会を増やし、魅力をアピールする。身近にある自然を増やし、自然の大切さが分かるようにする。外来種と固有種の関係を明らかにし、対策を練る。それぞれの生物の生態調査を行い、その情報を公開する。インターネット上で、「さいたまの自然情報交流」のようなホームページをつくり、「どこになんかの生物がいた」などの情報をみんなで分け合うことができるようにし、どんな自然があるか知ってもらう。

提案内容
その地域（さいたま市内の様々な区分など、細かい単位で）ごとに伝統的に伝わるお祭りや伝説など。（私自身、さいたま市に住んだことがなく、今まであまりことは接点がなかったのですが、私の地域にも江戸時代から伝わる伝説や祭り（はやし？）があるので、同じようにここにも何かしら伝統があるとしたら、それらを守りつつ、年に一度くらいで祭りを開催すると、住民の人たちの理解も深まって、いいと思います！）
大宮の鉄道博物館をお宝と考えます。1号機関車や、その他鉄道遺産があり、鉄道の歴史やしくみなどが学べる博物館です。たいきゅう化の工事をして、未来の生徒にも足を運ぶことができる、ようにしていきたいと思います。工事費用はJR東日本が50%さいたま市が20%埼玉県が30%としたらよいと思います。
歴史的文化的資源についてはやはり戦国時代や鎌倉時代の武蔵の武士の歴史などをアピールする場所を作ったり博物館を作るとよいと思う。
そのお宝の価値を地域の人々に発信する。
大切に思う歴史文化！食（和食）、理由→食文化の洋風化で和食のだしの味がわからなくなっている人がいるため、つなげていく方法→学校の給食で和食を出して味覚を直す（？）行事（七夕、鏡開き）などを覚えるために、給食を出す、など。
私は盆栽をお宝だと思っています。盆栽を残していくためには、世界中の人々に埼玉の盆栽のみ力を知ってもらう必要があります。そのために、人気のSNS活動者とコラボを試みたり、全国の人々が注目する場に盆栽をかざることがあると有名になると思います。
空気がキレイで緑が多い。1人1人が緑を大切に。木をおらない。ポイ捨てしない。ゴミひろい。
「お宝」＝市民だと思いました。理由は、高齢者の方々だったら、昔のさいたま市がわかるし、今の若い人たちだったら、今のさいたま市のよいところを伝えていけると考えたからです。これらを未来につなげていくために、さいたま市の観光スポットに、それぞれ、市民の方々をつけて、みんなが楽しめるようにしたり、さいたま市の良いところを伝えあう会というものなどを、やりたい人だけでなく、中学校や小学校でも、地域の人をよんで、話しあい、考えるということをやりたいと思います。
私はさいたま市には住んでいないので、地域の歴史文化資源としての「お宝」が何なのかは全くわからないのですが、簡単なものであったら、手作り体験をしたりするのがいいと思います。またその原型は少し残しつつ、流行りを取り入れるのもいいと思います。そうすれば時代の担い手にいずれなる若者に興味を持ってもらうことができるからです。それこそ有名人がそれをやり、SNSなどを通じて発信したら自分もやりたいと思うその有名人のファンも少なからずいると思います。（私はもし推しがそのことをやっていたら、どんなに遠くてもやりたいとは思っています。）
見沼たんぼ内になにかのカフェなどを作って、たんぼが見えることを売りにすれば、行ってみたい人も多くなり、認知度が高くなるのではないかと考えました。
「緑豊かな自然」だと思います。未来につなげるためには、地域の人々が金を出しあって、森や林などの自然を購入し、それぞれが管理すればいいと思う。他にも、森林伐採は一つの森につき10本前後とし、無駄にしないようにすればいいと思う。
小学生の頃、校外学習で歴史の博物館に行き、関心を持った為、歴史の博物館をつくり、校外学習の見学場所にして、少しでも関心を持ってもらう。また、私が大切に思う地域の歴史文化資源は、さくらが咲いている風景です。自然の宝物は博物館に残すのがむずかしいため、子供がよくいる公園などにうつる。
大切に思う地域の歴史文化遺産としての「お宝」というのはその地域の行事や自慢できる風景であると思う。しかし、その「お宝」も後継者がいなければ、いずれはなくなってしまふ。この地域の「お宝」を守るために多種多様な人々を集めることを提案する。誰か一人でも興味を持ってもらうことによって、自分が守りたい地域の「お宝」を引き継いでくれる人々が出てくるのではないかと。二つ目は、風景を守るためのボランティアを集めたりすることを提案する。高収入者をはじめ、若い人たちでもボランティアに参加する人たちもいると思う。また、ポスターなどをはることによっても違ってくると思う。このようなことを行い、大切に思う地域の歴史文化資源としての「お宝」を未来につなげていけるのではないかと。
私は、父の出身である広島県の「原爆ドーム」を残してもらいたいです。どれだけ長い年月がたつたとしても、これから生まれてくる子どもこれから世界を背負って行く子ども達に、「何があっても、絶対に、人の命をうばう戦争をしてはいけない」ということを伝えるために残していただきたいです。人間と人間のちっほけな摩さつによって、関係のない人がどんどん命を落としていくことをしてはいけないことを伝えるために、「原爆ドーム」を残してもらいたいです。心の中には、残っていても、将来残らなければ、この後その事が実際に起こったことではないと認識されてしまふかもしれないので、できれば、心の中だけでなく、当時の実物を今も残して欲しいです。
岩槻のひな人形など、さいたま市の伝統工芸品を残していきたいと思う。それを未来につなげていくためには、もっと色々な人にひな人形を知ってもらって、職人さんの技術をすたれさせないことが大切だと思う。
震災などでこわれてしまった建物を復旧するときの費用を援助する。（募金） 祭りに参加する。各地の伝統工芸品や重要文化財などにふれ合う時間を作る。
さいたま市の歴史文化遺産としての宝は、南浦和駅～蕨駅間の京浜東北線や、浦和美園駅の車両基地や、アウシュビッツ収容所などの、近代化した象徴や、「負の遺産」などを残していくべきであると思います。この、お宝を未来につなげていくには、多くの人々が募金を寄付していくことや、みんなが楽しめるように修理・工夫などを重ねていくこと、「負の遺産」を実際に世界に発信していくことがこれからの必要になってくると考えました。
埼玉県志木市はカパルというユルキャラがいます。カパルは全国1位のユルキャラです。とてもいいユルキャラです！。
僕が大切に思う地域の歴史文化遺産としての「お宝」はひな人形です。ひな人形を未来につなげていくには、夏祭りなどの行事があるときに人形の説明をしたり、人形をつくる体験をしたりする。
さいたま市のサッカーチームのサインやハートフルサッカーなどの活動のようにサッカーを身近に感じられるようにできればいいと思う。また浦和まつりのような昔からあるまつりなどをつなげていくのがいいと思う。
「お宝」は大宮公園。大宮公園は桜が有名なので、桜が春に毎年咲くようにお手入れをする。そのためにお手入れをするボランティア団体を作ったり、地元の小中学校で、手入れ体験のようなイベントを行って、桜に興味をもてるようにする。お花見の時期は屋台も出ているので、もっとたくさんの屋台を出したり、せっかく桜がきれいなので、絵描きイベントを行って、いろんな年代が参加できるようにする。

提案内容
<p>私はさいたま市にある近所の公園の風景を大切にしたいと思っています。学校が早く終わり、昼すぎくらいの公園の横を通りかかると、健康のために運動をする高齢者の方々や学校帰りに友達と遊んでいる小学生をたくさん見かけます。今、世界中で戦争や紛争がおこり罪のない子供までもが殺されてしまう世の中で、このような景色が当たり前のように見られることはとても幸せだと思います。しかし、最近ではスマホを持つ子供が増え、外で遊ぶなくなり、そもそも公園自体の数が減ってしまうのではないかと心配です。この「お宝」ともいえる風景を未来につなげていくためにはまず、大人がスマホやゲームなどの中毒から抜け出し、外で体を動かすことの大切さを後世に伝えていく必要があると思います。</p>
<p>大切に思う地域の歴史文化資源としての「お宝」を未来につなげていくために。 ・月に1回程度、その地域の歴史的に価値がある施設や場所の入場料を無料もしくは割り引きする日を作って、地域の住人の全員がそこに来やすくなるようにする。小中学校でそのような歴史的価値のある施設や場所を紹介し、未来を任う子どもたちのためにも、「お宝」の素晴らしさを知ってもらう。</p>
<p>まず、「お宝」を残すためには人に認識してもらうことが大切である。なので、小・中学生を対象として、歴史を学ぶというこもくで校外学習を行い子供たちに知ってもらう。それから、学校で歴史についての物を作ってもらい、下の学年の子に伝えるということを取り返して行って、どの世代の子どもも知っているという未来がつくられていく。そうなったら、市民のほとんどが歴史についてある程度分かっていることになり、サッカーの応援の様子などの形に残らない物も応援している様子を見せたりして子供たちに見てもらって、つなげていき、市内のサッカーの認識を変えていけばいいと思う。</p>
<p>自分の住んでいる岩槻には、岩槻の街道ならではの物が人形などの工芸品があるが、岩槻は同じ県の川越に比べ、全然、有名ではない。しかも、岩槻の歴史的建造物はかなり少ない。なので、それらを活かした、岩槻ならではのグルメや、人形をもじったグッズなどを作り、古くからの岩槻の雰囲気と、近代的な都市岩槻としての姿をゆっくささせた、町をつくれれば、歴史文化としてのお宝を守りつつ、発展する町両方のメリットを得られると思う。</p>
<p>浦和区はうなぎが有名で、うなぎ料理を作っている所（お店屋さんとか）の方々や学校に来てお話をすることで、世界的に不漁になっているうなぎを保護し、未来につなげていけるのではないかと。</p>
<p>昔ながらのお祭りや建物、長年守られてきた植物や技術など、その知己に昔から根付いている全てのものが「お宝」だと思う。しかし都市化が進む中でビルや家が建てられたり新しい技術が導入されたりしてしまうと、それらの「お宝」は存続の危機にさらされたり、「もう不用だ」と思われてしまいかもしれない。 そこで、昔ながらのものの個性を生かしつつ、今風にアレンジすればいいと思う。昔からあるものをそのまま受け継ぐことだけが伝統を守ることになるのではなく、時代とともにアレンジし続け、そこに住む人に受け入れ続けられることが本当の「お宝」になる。</p>
<p>各学校で、色々な伝統的な文化を学ぶような時間若しくは取り組みを設け、担い手の重要性について幼い頃から教えていけば、将来迄残ってこれらからつなげることが出来るはずだ。また、そもそも地域「お宝」自体よく分かってない子供が大半だ。よって先ず「知る」という所から教育を始め、そうした上で工芸品を作る体験を大規模に行って「体験」することが必要だと思う。つなぐには世代間の受けわたしが必須事項となってくるため、次世代が興味や関心をもたなければあつというまに廃れてしまうものだと思う。だからこそ文化財について子供たちへの教育を強化し、地域全体で関わられるような行事を設け、私たちがそれに積極的に参加するのが必要だと思う。</p>
<p>地域にある公園。ニュースでどんどん子供の遊ぶ公園が減っているのを見ました。これからは子供の遊ぶ公園がなくならないように、地域の人達が協力して、公園を守ったり、公園を使う子供達もルールを守って公園で元気に遊ぶことが大切だと思います。</p>
<p>・いもの ・いものでできた物を、小学生にあげる。 ・作っている場面を見せたり、体験したりする。 ・作っている人の人数などの状況を伝える。 ・東京五輪で使われたことなどの功績を発信する。</p>
<p>さいたま市の文化を残していくために、ポスターをはったり、家族や友達と話す。</p>
<p>大切に思う「お宝」は、横須賀にある記念艦「三笠」です。日々、艦内を掃除すればさびも防げ不朽の存在になると思います。</p>
<p>小学校等で、特別に埼玉の文化資源を調べて、発表をしたり授業の時に人が来て文化資源について話して、小学生の関心を引くようにする。</p>
<p>まずは、どのような「お宝」があるかをみんなが知る必要があると思う。どのようなものがあるかを知るためには、ポスターやウェブサイトなどで歴史文化資源に関心をもてるような内容を書き、イベントなどを通して広く分らせるようにしたらいいのではないかと。また、せっかよ的にいろいろな学校に歴史文化資源についての授業のようなものを行えば、興味をもっていく人も増えていくことで、未来に残していけると思う。もし土偶など学校の授業の内容としても出て来るようなものであれば、実際にその実物などを見せ、こういう物なんだということを改めて感じさせる。結論多くの人に理解してもらうことが大事だと思う。（興味や関心をもたせる）</p>
<p>鎌倉や京都などにある建築物などを、うまく残せるようにする。そのために職人の技術を後世にのこせるように後継をする人材を集める。また、その管理などもしっかりと行う。</p>
<p>各地域で大切にされて伝承されている場所や習慣や1人1人の地域の人々が作って来た困ったら協力する関係性。過疎地域などに海外から来た人を呼び込みそこから関係性が作られてみんながこの文化を守っていこうという風潮が生まれる。Youtubeなどのみんなに発言することのできるソフトで文化などの大切さを教えることで若い人たちにも日本の昔の文化を守ろうという風潮が高まる。</p>
<p>私はさいたま市にあるどんな歴史的建造物よりもそれらを含めたこの市が1番の歴史文化資源だと思う。この市をよりよい形に未来につなげるには1人1人の意識を変える必要があると思う。例えばゴミは分別して捨てる、公共の場や物はきれいに大切に扱うなど少し面倒なことでもほんの数秒、数十秒かけるだけで数年後や数十年後の未来はかなり変わってくると思う。そして私たちは「さいたま市」が取り組んでいることについて再度目を向け「自分たちができることはないか」と常に考え続けることが大切だと改めて思った。</p>
<p>盆栽を作ったりしている人にえんじょをしたりする。そして盆栽を作る仕事の後継者を市が率先して著者に推める。そうすれば盆栽をたくさん作ってそれを売ることができるから盆栽を重要な産業にできる。そうすれば守れるのではないかと。</p>
<p>さいたま市で有名人を輩出しその人達を宝とする。今までの物にかぎらず、今、伝統などを作り、それを宝とする。</p>
<p>地元「お宝」についてももっといろんな人知ってもらってその「お宝」の良さをどんどん知ってもらうための場所をつくる。</p>
<p>さいたま市に住んでいるが、さいたま市の魅力はあまり知らず、地域のお宝というのもよく分からないが自分の意見としては、形あるものはいつかこわれてしまうから、お宝を未来につなげるというのも良いと思うが、それよりも、他の新しいお宝となる何かに価値を見出して、それをまた大事にしていくというスタンスの方が若者から老人までの負担（守りついでいく人の）も減るからそちらの方が大切だと思う。</p>

提案内容
<p>・地域の「お宝」の良さを学校などで広め、募金活動や、協力してくれる人を集めたりする。・「お宝」をモチーフにしたグッズや、キャラクターなどで、より興味や関心をもってくれるのではないと思う。地域のイベントでも発表したり、学校で時間を作ってもらって伝えたりすることで、どんどん「お宝」の大切さやおもしろさが広まっていくと思う。指定文化財などはすべて、大切で、広まるべきだと思います。</p>
<p>最寄りの駅にある大きな商店街があります。それが、僕の地域のお宝です。今、最寄りの駅では、再開発が進んでいて、もしかしたら商店街が消えてしまうかもしれません。なので、僕達がいなければいけないのは、再開発の反対です。</p>
<p>地域のお宝はお寺や神社だと思います。たとえば、家の近くに円乗院というお寺がありますが、そこには毎年七福神めぐりの時に、行っています。七福神めぐりは行くのは大変ですが、とても面白いですし、運動にもなります。なので、寺や神社をめぐる道を整備し、またパンフレットなどをくまりにいろいろなお寺などの歴史をまとめたらいと思います。</p>
<p>まず、一つ持つべきだと思う視点があります。それは、「地元の魅力」をピンポイントで知ってもらおうというのはまず難しいことだと考え、「あまり注目されない地域の魅力」を伝える方法を考えるという見方です。それをするために私が考えたのが、ミステリーツアーの企画です。目的地は隠し、具体的に何をやるのか（移動、〇〇体験など）だけを示した旅行プランを作成し、それに参加してくれる人を募集します。そしてそのツアーの行程で地域の魅力的な行事や文化を体感してもらおう。そうすることで、パンフレットなどの書面で伝えるよりも、もっと深くその魅力に触れてもらえるんじゃないかと思っています。ここではそれにさいたま市の伝統工芸品（ひな人形造り）や史跡（吉見百穴など）</p>
<p>木や仏像、寺社の建物や古民家などの形のあるものには看板みたいな印を付け、歴史文化資源であることやその歴史を記してみんなに広めていく。</p>
<p>さいたま市にある「お宝」は各地の神社だと思う。神社が出来始めたのは江戸時代くらいからだと思うが、今までに壊されたものは数多くない。しかし、近年の技術の進化につれて、建物の多くが高層ビル化してきたことで、神社が侵食されてしまう可能性も低くはない。しかし、私たちの文化として、それらは守っていく義務があると思う。</p>
<p>「ひな人形や盆栽などの作り手の方や技術」後継者不足といわれているこのような伝統文化業界を残すには、メディアに取り上げてもらうのが1番良いと思います。ひな人形を紹介する、盆栽も流行のアニメキャラなどをモチーフとしたものを作り…という感じで人々に興味をもってもらう後世に残しやすくする。</p>
<p>歴史的な町並みの風景を残していく。今の世代の人は昔の文化に触れる機会が格段に減っていると思う。市内に歴史に触れる場を設けることで、子供から大人まで幅広い世代の人が昔の文化に親しむことは大切だと思う。また、歴史的な町並みを残すと同時に、そこに自然の花や木などを植えれば自然と歴史の両方を楽しむことができる。</p>
<p>岩槻人形を地域の入学式に無償貸し出しすることにより、子供達の興味関心を引き出しより創造的人材育成を図る。学校の図工の授業で雛人形作りをする。ハロウィンの時期先生が雛人形のコスプレをする。公民館で雛人形の一部（顔）作りの体験授業を行う。</p>
<p>様々なスポーツやその他のイベントが行われるさいたまスーパーアリーナを「お宝」として残すため、周辺地域の緑化の推進及びCO₂の排出量削減など、環境面で地域の在り方を考えていくべきである。</p>
<p>昔から今までつながっている遺跡や、県や市で保管されている重要なもの。また、その歴史的なものを説明する会やフェアみたいなものを開いて多くの人に状況や良さを伝えて、今後未来に繋げていくことを望む後継者を探して、それをどんどん繰り返して、途中で途切れたりするのを避ける。歴史的なものを旅行のパンフレットや地元PRなどに載せて、そのまちの人だけではなく、全国の人が興味を持つ可能性を増やしていき、1人でも多くの人に来てくれるようにする。</p>
<p>道路です。何百年もたてば、今はなにげないものでも価値がでてくるので、何でも保存してみましょう!!</p>
<p>市のおまつりなどに、積極的に参加することで、そのおまつりを後継するひとをつくる（若手）を見つけることで未来に残していく。若者が楽しめるようなものを作る。</p>
<p>若い世代にもつなげていこうようにさいたま市にも協力してもらえようによびかける。そして予算の中に事業ふりかえ費をいれそのお金で多くの若者によびかけ、関心をもたせた上で学習させる。外国人などの観光客にも市の文化的しさをたいけんさせるプロジェクトもかいはつする。</p>
<p>小学の際に見沼代用水について、製作者の伊澤弥惣兵衛についてや、規模を見るために、校外学習を行い、さらに定期テストでは、井澤弥惣兵衛の問題が出ました。その時は、中学入試にもでないのに、と思っていましたが、今は歴史的な文化財を守るために理解を深めていたのだなと納得しました。このような機会を増やすべきだと思います。</p>
<p>新座市にある、平林寺や野火止用水です。両方とも江戸時代あたりから続いていて古いので、時々清掃したりするボランティアに参加することが必要だと思います。</p>
<p>各地域の食材を使った郷土料理は、それぞれの地域にしかない大切な文化で、文化の保存に加えて、地産地消をこころがけることで食品ロスの対策にもつながると思う。未来に地域の料理をつなげていくために、家庭で年長者が子供たちに伝えていくことや、市のホームページなどで紹介したり給食に出したりすることができると思う。</p>
<p>畑などの、東京に少なくなってきたものをのこしつづける。マンガ家がいっぱいいる街なので、広く読みつづかれるマンガを読める場所をつくる。石神井川の自然を守りつづける。（桜の木など）</p>
<p>その場所の昔ながらの文化だと思います。歴史的な場所では、それぞれの文化を中心に発展しているため、これを未来につないでいくためには、人々がその文化に意欲を示し、学び、継承していくことが大切だと思います。</p>
<p>いものが地域のお宝。いものがいらなくなるようにいものを絶対に使うものを発明する。ペーゴマを流行らせる。小学校の社会科見学でいもの工場に行く。いものについて学ぶ授業をする。</p>
<p>僕の思う地域の歴史文化資源としての「お宝」は遺跡や金印などの小さな物まで指します。そしてその「お宝」を未来につなげるためには、小学校などと協力をして、日本の歴史やその地域の歴史の奥深さを知ってもらおう。または、昔の人々の生活で体験してもらおうことで、昔での生きる苦悩や自分が今生きていることへの尊さを実感してもらおう。資源は学校やコンビニ、駅前などで募金してもらい、日本もしくはその地域の団結力を高める。</p>

提案内容

久喜って何がある？って聞くと大抵返ってこないんですよ。強いて言えば祭りがあるけど……お宝っていうけど、どこでもあるもんじゃあないぞそんなの。未来につなげていきたい人がいるからつながっているだけで、つながらないということはつまり、無くなってもどうでもいい、つながらなくてもいいものってことでは？

埼玉県は、「サッカーのまち」なのでその歴史を学び、その象徴として、「サッカーの応援風景」を「お宝」として残したい。

古い建物などはCGにして埼玉県のサイトなどで見れるようにする。

最近無形文化財のおはやしを伝えてくれる人が少なくなっています。この文化が廃れないようにする為にも後進を育成する必要を感じます。私は小一の時におはやしをはじめて見てならい始めました。その時私に丁寧に教えてくださった方々も今ではおじいちゃんです。さらにおじいさん達もとても高齢で、年を理由に引退する人もいます。さいたま市には数多くのおはやしや江戸時代から続く里楽があり。どの団体もだいぶ高齢化してきました。しかし、今の子ども達が目で見たりふれたりする機会はとても少ないと思います。このような文化が廃れないようにするには、10代の協力や、積極的な参加が必要です。しかし今一番大切なのはより多くの子ども達におはやしや、里楽について知ってもらうことです。若い世代に知ってもらうには学校の地域活動や市の事を学ぶ時間を多くし、見る機会や体験する機会、知る機会を増やすことが必要だと思います。更に、子どもから「今日おはやしについての授業をしたんだよ～」と親に伝えれば親にも知ってもらえます。マスクで互いの顔を見れない今、地域の結束力を強くし、伝統文化を伝えていくことが大切だと思います

夏祭りや地域の人が全員で集まってやる行事など「お宝」だと思う。理由は地域の人で集まることはなかなかないから、こういう祭りなどの行事は大事だと思うので残していきたいと思う。残していくためにはできるだけ多くの人たちに参加してもらえるように参加してその魅力を伝えたり、ポスターを書いたりする。

僕は、東浦和に住んでいるから、近くに「見沼通船祭り」がある。これは昔の人がつみ重ねてつくっていった貴重なもの。これを残していくには、川を大切に作る、など。

お宝というのは、それが宝だと思ってくれる人がいてようやくそれが宝だという価値を持つものだと思います。なので、そのような価値観の人をみつげるために、無料でできる見学会などをすればよいと思います。

その地域の小学校や幼稚園、小さい頃から教える。そしたら、深くきおくに残るはずだから。1年に2～3回など、中学校でも年に1、2回教える。

さいたま市に史跡や文化財があるのは知っていたけれど、どんな文化財があるのか、また、それらはどういった経緯でできたものでどういった人が関わっていたのか具体的に知っていることが少ないので、そういった史跡や文化財の歴史のストーリーを「さいたまだより」などといった形で小・中学生も手軽に知れるようにする。その「物」の歴史のストーリーを知ること、小・中学生も自分から興味を持つきっかけになると思う。

さいたま市で誇りに思うものは、調公園で行われる、十二日祭りです。たくさんの方が来て、とても楽しそうでした。未来に残す方法として、ちょっと離れたところでも十二日祭りや調公園、神社をPRしてほしいです。また、調公園は公園としても遊べるので近くの学校で調公園について話してほしい。